



『考え方』こそが人生を決める

高井法博会計事務所
TACTグループ関連12社代表

税理士 高井 法博

ソルトレークシティ五輪を逃した後2004年3月の世界選手権優勝で引退したかった荒川静香選手。『トリノまで頑張れ』との周囲の期待に、その思いはかき消され、迷いも吹っ切れた。8年振りとなるトリノ五輪のフィギュアスケート女子で、見事満場の観客を魅了し、この大会唯一の金メダルを獲得した。引退を辞め前向きに挑戦して我々に感動を与えてくれたことと共に、やりきることの重要性を教えてくれたことに感謝したい。その陰で元世界チャンピオンの村主章枝選手、昨シーズンからルールが変わり、ジャンプやスピンの一つ一つが厳格に採点されるようになり、ミスの無い演技と全体の表現力で勝負する村主選手は不利となり4位となった。2年程前この村主は「強い人は運命を嘆かない」と語っていたのを覚えている。今回も4位になった後の弁はとても爽やかだった。

一、本物の人間は、『他責』にしない。
仕事のできる人とできない人には明確な特徴『考え方』の差がある。いくつもあるがそのうちの一つに『他責』がある。本物のできる人間は、明るく前向きで素直で自

責で悩んだり苦しんだりした時も本を読み、本物の人脈に教えを請い前向きに物事を解決していく。酒を飲んでも誠に有意味な酒で話題が全く違う。明るく前向きで、問題を前向きにとらえ、自責でどう解決していくかを、そして人生を夢を天下国家を語る。本物の人間同士触発しあい、成長し成功者となっていく。

反面できない人間は、すぐ『言い訳』をする。適当にごまかす。できない理由を述べる。そしてできない自分を正当化し自己防衛をする。自分ができない人間で、無能であるということアピールしていることに気づいていない。そして『愚痴人間』である。めったやたら酒に誘う。そして飲みながら愚痴を言う。ダメ人間の手軽なストレス解消法で不幸のイメージ化となる。愚痴を言っても何も変わらない。愚痴を言えば言うほど自分がダメになる。できない自分がどうしたらできるようになるかを考えないで、できないのは他人のせいにする。自分だけならまだ許されるが、他人まで集め、言い訳、失敗癖、愚痴。他責人間同士は悪い影響を与え合い、暗く益々マイナス方向に行ってしまう。時間を無駄にする。

本物の人間になるには、ネガティブ集団から離れポジティブ集団と付き合うことである。

二、『考え方』こそが、人生を決める

このところ毎週月曜日の朝続けている早朝勉強会で、次のようなことを勉強した。戦後の学校教育は、どんな考え方をするかどんな思想を持つかは個人の自由であり、すばらしい権利なのだと思わされた。特に能力主義のインテリほどそのようなことを口にする。確かにどんな考え方を持つのも法に反していなければ自由だと思ふ。しかし、その自由の中で自分がどのような考え方を選択するかによって、自らの人生、運命が決まってしまうことまで解っている人が、果たしてどれだけのいるだろうか？いつも京セラ稲盛名誉会長がおっしゃる『人生・仕事の結果＝考え方×熱意×能力』について、能力と熱意はゼロから1000までで示されるが、考え方はマイナスイナス1000からプラス1000までとなっている。この『考え方』は『人生を歩いていくための方向』みたいなもので、東西南北の全方向ではなく、ゼロを基準にこちらに100、その反対側に100、というように一直線になっている。プラスに向かって歩くか、マイナスに向かって歩くかという、単純な二方向しかない。自分の考え方がプラス側に50なのか100なのか、反対にマイナス側に50なのか100なのかによって、この方程式がかけ算だけに人生の結果は、プラスかマイナスかに大きく明暗を分ける。自由であ

る考え方、思想、その選び方によって自らの人生、運命が決まってしまう。これほど重要なことに、多くの人は気づいていない。学校でも会社でもなかなかこのようなことを教えてくれないからである。しかしいくら教えてもらってもこれが理解し行動に移せず、たった1回しかない人生を無駄に送る人は多い。一旦身につけてしまった価値観、癖はそう簡単に変わることはできない。これらは全く頑固にその人にこびりつき、今まで一杯それで失敗してきた癖に、その人の成長を止め勿体ない人生にしてしまっていると思う。誰の為に命がけで『考え方』を磨かねばと、つくづく思う。



第30期 経営計画発表会にて